

秋田大学

2011年3月20日発行

## 国際交流センターニュース 第5号

Akita University International Exchange Center News

発行者： 国立大学法人秋田大学国際交流センター 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/> 電話：(018) 889-2856 kokusai@jimu.akita-u.ac.jp

- 国際交流戦略の実現に向けて (1)
- 北東北国立3大学との連携継続 (1)
- テレビ会議システム開通 (1)
- 安心できる暮らし—留学生用宿舎で懇談会 (2)
- 秋田の冬は楽しい (2)
- だれでも聞ける心惹かれるミニ講座 (2)
- 秋田の農家民泊 in 西木町 (3)
- ブカレスト大学から Focseneanu 先生来訪 (3)
- 専任教員から一学ぶ権利・学ばない権利 (3)
- お知らせ、ほか (4)

留学生向け東北地方太平洋沖地震への対応情報 <http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/>  
 See Earthquake Related Information in English on the University Website. [http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter\\_en/](http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter_en/)

## ○ 国際交流戦略の実現に向けて

このたび秋田大学の国際戦略がまとまり、1月の役員会で最終的に承認されました。あらためて述べるまでもなく、大学の第一義的存在意義は、大学の有する知的資源を十分に活用して学生を教育し、社会へ優秀な学生を送り出すことに尽きます。すでに会議を英語で行う日本企業も現れ、これからの日本社会の在り様を考えると、ダイナミックに変動する国際社会へ対応するための資質を備えた人材の育成が大学にとり重要な責務の一つと考えられます。この点は日本中の多くの大学が認識しており、大学国際化へ向けた様々な試みがなされています。秋田大学の現状をみると、留学生受け入れ、学生・研究者海外派遣の実績は増加傾向にあるものの国際化へ向けた取り組みは必ずしも十分とは言えません。

今回策定した「戦略」には、秋田大学がもう1段階上の国際的に魅力ある大学へ脱皮するための基軸となる考え方を4つの領域に整理してあります。さらに、教育環境、研究環境、キャンパス環境の国際化を目指した具体的課題もかけました。後ほど冊子として配布しますので、学生をはじめ秋田大学教職員の皆様には、秋田大学の国際化とはなにかを考えるきっかけにいただければ幸いです。(榎本克彦：ENOMOTO, Katsuhiko — 国際交流センター長、医学系研究科 医学専攻 分子病態学・腫瘍病態学講座)

## ○ 北東北国立3大学との連携継続

12月11日から1泊2日で、国立岩手山青少年交流の家において、岩手、秋田、弘前の北東北国立3大学の留学生と日本人学生計78名が、合同合宿研修を行いました。1日目の前半は、4人5脚などのゲームやジェスチャーゲームを行って交流を深めました。1日目の後半と2日目には、「日本」をグループ全員で身体で表現するゲームや、1枚の写真から想像をふくらませて「紙芝居」を作る活動に挑戦しまし



た。学生が持つ「日本」に関する様々なイメージをまとめたり、ことばや文化の壁を乗り越えて1つのストーリーを完成させたりする活動は、学生にとって大変興味深いものとなったようです。北東北3大学で共同でおこなっている事業としては大変ユニークなこの行事、今後も続けていきたいと考えています。(宮本律子：MIYAMOTO, Ritsuko — 副センター長、教育文化学部国際コミュニケーション講座)

## ○ テレビ会議システム開通 — タイ・モンゴルそして中国へ

10月27日、本学とチュラロンコン大学(タイ)との間で、テレビ会議システム開通式が行われました。工学資源学研究所とチュラロンコン大学理学部は部局間協定を結んでおり、高島勲名誉教授の支援の下、地質学を中心とした研究交流が始められています。今回のテレビ会議システム設置により、本学で研究指導を受けた研究者・学生に対しタイに戻ったのちも研究支援を継続することが可能になります。

また2月4日にはこのシステムを用い、初の日本語交流授業が実施されました。相手大学は、本学の元留学生が日本語教員をしているペチャブーン・ラヤパット大学(タイ)です。交流授業では、本学留学生が日本語で秋田を紹介し、タイの学生も日本語で自己紹介を行いました。遠く離れた場所にも日本語を学ぶ仲間がいることを知り、日本語を学ぼうとする意欲が一層高まったのではないかと思います。

なお、このテレビ会議システムの設置は、「教育研究高度化のための支援体制整備事業」(文部科学省・2009年度)の助成により行われたものです。大学間協定校であるモンゴル科学技術大学・蘭州大学にも設置し、教育研究交流に有効利用する予定です。

(牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)



写真：多文化交流ラウンジで行われたテレビ会議システム開通式

## 安心できる暮らし — 留学生用宿舎で入居留学生と主事との懇談会

11月16日(火)、留学生会館で杜威主事(教育文化学部教授)と入居者の懇談会を開きました。翌17日(水)には国際交流会館で行松健一主事(工学資源学研究科教授)と入居者の懇談会を開きました。入居学生からは自由で忌憚のない意見が多数寄せられました。意見については実現可能なものから順次対応していく予定です。

(西田文信：NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

## 4年間主事を務めて……………

留学生会館や国際交流会館はその住民にとって日本における自分の「家」であり、落ち着く場所となります。この「家」づくりのために、大学側も留学生側も様々な活動をしてきました。施設・設備のメンテナンスや更新の実施、懇談会の開催、共同バーベキューパーティの開催、留学生による掃除活動の展開などなど。今後、より温かい「家」を目指していくために、大学側の管理の徹底と留学生たちの自治能力の更なる向上は1つの方向性として示されています。皆さんがますます喜んで「帰って」きてもらう場所になるよう、また、地域住民との国際交流がより盛んになるよう期待します。

(杜威：DU, Wei — 教育文化学部教科教育学講座)

## 秋田の冬は楽しい

### 年末恒例もちつき大会……………

12月22日、大学会館1階食堂を会場に留学生体験事業「日本のもちつき」を実施しました。当日は、本学留学生・教職員のほか、日頃、留学生がお世話になっている留学生会館や国際交流会館のある地域の方々が参加しました。留学生は地域住民の手を借りながら、実際に餅をついたり、お供え作りの体験をし、お正月を前にした日本の伝統行事に直に触れる機会を楽しんでいました。(国際交流課)

### 森吉山の樹氷ツアー……………

1月22日(土)本学と秋田高専の留学生計38名が参加し森吉山の樹氷ツアーを実施しました。まず打当温泉「マタギの里」でのマタギ継承者によるマタギ語りを聞き、美味しい郷土料理に舌鼓を打ちました。その後、韓国ドラマ「アイリス」のロケ地でもある阿仁スキー場に移動し、樹氷を見学しました。留学生はゴンドラに乗って山頂のマイナス10度以下の世界を



体験し、また氷点下でも凍らない過冷却水の実験に興味を示していました。

(西田文信：NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

### 2月19・20日のスキー合宿研修会に参加して……………

今回スキー合宿に行って思ったより楽しかった。初めての私にとって本当に難しかった。



1日目、初めてスキーのブーツをはいて、ブーツが重くて足が固定されて動けなかった。そして、滑ってみて足のひざとすねが痛くなった。しかし、先生方の指導を通して、自分で練習して、2日目にだんだん慣れてきて、できることになった。嬉しくてもっと滑りたかったが、残念。帰学すべきことになった。

また、今度、もしこの活動が続ければ、ぜひ参加させてもらいたいと思う。(グエン・ミン・ホア：NGUYEN, Minh Hoa — 工学資源学部環境応用化学科2年)

## だれでも聞けるんです — 心惹かれるミニ講座

### ミニ講座「秋田の歌っこ、うだってたんせ」を担当して

11月16日のミニ講座では、秋田が誇る素敵な歌の数々から『どじょっこふなっこ』『ねんねこころさこ』『どんぱん節』『浜辺の歌』を採り上げてみました。「音楽に国境はない」と言うのと、音楽教育の世界では「ふっ、青いなオマエ」と一笑に付されますが、ケニア、中国、韓国の留学生には十分に魅力が伝わったようで、音楽の力を再認識させられました。特に『浜辺の歌』は好評で、本学OB成田為三の旋律は「すっかり国境越えてるし」と胸を張って言うでしょう。留学生に限らず、みなさん、秋田の「歌っこ」をもっともっと「うだってたんせ！」

(佐川馨：SAGAWA, Kaoru — 教育文化学部音楽教育講座)

### 多文化交流ラウンジまもなく1周年……………

多文化交流ラウンジは、2010年4月15日にオープン以来、たくさんの教職員や学生に利用されています。1日当たりの平均利用者数は、のべ約90名で、留学生と学生、教職員の、よき交流の場となっています。10言語の外国語教材を利用して自律的に学べるほか、留学説明会や、教職員の専門や趣味を生かしたミニ講座も開催されています。

・場 所： 一般教育1号館2階

・開室時間： 平日8:30~17:00

教職員による申し込みの場合、時間外や週末の利用も可能です。詳細は当センターWebをご覧ください。

(国際交流課)

## ◎ 秋田の農家民泊 in 西木町

10月16日・17日と11月6日の2回に渡り、「秋田の農家民泊 in 西木町—持続的交流の展開」を実施しました（主催：秋田地域留学生等交流推進会議）。県内高等教育機関5校から、留学生・日本人学生・教職員等、合計35名が参加し、昨年度に続き仙北市西木町で農作業を体験しました。

### ◎ 農業体験ツアー.....

1回目のツアーでは、6軒の農家に分かれ、農作業と農家民泊を体験しました。来日したての留学生が多く、豪華な住居の作りや野菜を中心とした食事、米の袋詰めなど、すべての体験に驚きの声を上げていました。翌日は、自分たちの体験を生かし、外国人観光客に各農家を紹介するための手作りパンフレットの作成にとりかかりました。

（牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター）

### ◎ Nishiki-machi Farmstay and Harvest Festival: Experiential Learning at Its Best.....

Have you heard about the International Exchange Center's new program, "Farm Stay in Akita"? If you are interested in knowing more about regional agriculture, meeting students from other



Photo: Learning to make kiritampo at Fuji Farm

universities, and experiencing life on a working farm, then don't miss this special opportunity. Last year, in the farm stay portion of the program, we learned to make tofu and *kiritampo*,

harvested *azuki* beans, walked through the lovely rice fields surrounding our hosts' home, and enjoyed tasty meals seated around a traditional open hearth. When we met our hosts a second time for the Harvest Festival, we spent the day at the Nishiki Katakuri Public Hall. There we created brochures to help attract more foreign guests to the farms and took turns pounding sticky rice into *mochi*. For many of those who participated, this program will be one of the highlights of their stay in Akita.

（ナガハシ・テリー・リー：NAGAHASHI, Terri Lee — 教育文化学部国際コミュニケーション講座）

## ◎ ブカレスト大学（ルーマニア）から Anca Focseneanu 先生が来訪

教育文化学部では、11月5日から15日にかけて、ブカレスト大学日本語学科主任であるアンカ・フォクセネアヌ先生を秋田大学に招待しました。「ブカレスト大学における日本語教育の現状」という題の講演では、国際交流センター所属の日本語教員との意見交換を行い、その後の懇親会でも、和気あいあいとした雰囲気での交流が図られました。また、アンカ先生は協定締結後の実質的な窓口担当者で、秋大生との間でQ and Aの機会を設けました。その他にも講義や授業参加など多くの活動をしていただき、大変有意義な時間を持ってました。（モリタ・エマ：MORITA Emma — 教育文化学部国際コミュニケーション講座）



## ◎ 専任教員からひとこと — 学ぶ権利・学ばない権利 牲川波都季

国際交流センターは間もなく日本語教育専門の助教1名を迎える。これにより日本語教育を専門とする専任教員は3名となる。

本学の留学生の立場は実に多様であり、中には大学生活においてはほとんど日本語を必要としない者もいる。にもかかわらず日本語教育を充実させておく必要があるのは、留学生には日本語を学ぶ権利があるためだ。現在の日本では、程度の差はあれ日本語に触れながら生活せざるをえない。その現状にあって日本語を学ぶことは、日本に暮らす者にとって権利として保障されていなければならない。

と同時に、留学生には日本語を学ばない権利もある。留学の目的は英語などで達成でき、日本語は日常生活が何とか営める程度で十分という場合もあろう。また、日本へは専門を学びに来たのであり、日本文化や日本語に文化的共

感を持たない者もいるだろう。日本語が使われている社会だからといって、必ずしも日本語使用・理解は強制できない。言語権の思想が教えるように、それは一人ひとりの文化的・政治的選択に関わることである。

したがって大学は、日本語を学ぶ機会を確実に保障するとともに、学ばない選択をする留学生にも対応できるよう制度や文書を整えていく義務がある。「国際戦略」にもあるように、表示や文書の日英併記化の実現が求められる。そして日本語教育専門家として、私自身は、留学生が学びたい日本語・使いたい日本語は千差万別であることを認識しておきたいと思う。学習者は何を学びたいと考え、私自身は何を教えたいと考えるのか。そのせめぎあいの中で、新しい教育実践の姿が浮かび上がってくるのかもしれない。

（牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター）

## お知らせ

### ● AUEP 申し込み締め切り 5月9日

AUEP (Akita University Experiential Program) は協定校の大学生が秋田大学で10月から1年間学ぶ、実践的留学プログラムです。多文化交流授業や農家民泊を含む日本文化入門授業をマルチ・リンガル環境で実施します。対照言語学や秋田地域を中心とした日本文化論など、専門的な授業内容を提供しています。総合的日本語クラスにより日本語能力を習得することも可能です。奮ってお申し込み下さい。(西田文信:NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

### ● 留学生は毎月15日までにセンターへ来てください

秋田大学に在籍している外国人留学生を対象に、在留期限を確認するため毎月1回、出席確認を行っています。毎月15日までに、配付済の「外国人留学生生活手帳」を国際交流センター(本道キャンパスの学生は医学系研究科・医学部学務課)に持参し、留学生出席確認簿に確認印を押しもらってください。また、生活上の相談がある場合は、出席確認の際に気軽に相談してください。

(国際交流課)

## ● 大学間協定締結情報

- ハイファ大学 (イスラエル) 2010年9月24日
  - ブカレスト大学 (ルーマニア) 2010年9月28日
  - 長安大学 (中国) 2010年11月18日
  - ミズーリ科学技術大学 (アメリカ) 2011年3月7日
- 4大学とも秋田大学から留学可能です。(国際交流課)



## ● 惜しまれつつ国連大学育成資金事業終了

本学では、2006年8月に国連大学と協力大学契約を締結し、国連大学育成資金貸与事業への参加を開始しました。これまでに



写真：成績優秀者表彰(1月19日)

88名の私費外国人留学生に対して学業に必要な資金の貸与を行ってききましたが、昨年6月に実施された外務省の行政事業レビュー(各府省版事業仕分け)の結果、事業の終了が決定しました。

すでに貸与を受けている留学生には計画どおり返還していただきますが、成績優秀者に対する特典の継続については、国連大学で検討中です。(国際交流課)

## ● 国際交流センター・スタッフ紹介 5

### ● 吹谷美穂 .....FUKIYA, Miho

留学生担当2年目になります。自分より若い留学生のみなさんが日本で頑張っている姿から元気をもらいながら、毎日お仕事させていただいています。おしゃべりと食べることに、特にパンとバターが大好きです。食べ過ぎてしまっ、1年のうちに姿が変わることも頻繁にあります。気にせず窓口に来て話しかけてください。

### ● 庄子歩 .....SHOJI, Ayumi

留学生の生活支援を担当して3年目になります。米ミネソタ州で3年ほど過ごした自身の学生時代を思い出し、微力ながらみなさんの留学生生活を応援させていただいております。好きなものは、休日に淹れるコーヒー。豆の分量もグラム単位で量り、湯温も82~83℃になるよう温度計で測定。理科の実験さながらです。

## ● 研修修了のあいさつ 加藤亜矢子



写真：左から庄子、加藤、吹谷

職員人事交流で秋田県立大学からやってきて、早2年。月日が流れるのは本当に早いものだと感じています。来る前は「国際交流課 = 留学生に関わる仕事」と思っていたのですが、実際は協定校に関する業務を主に担当しました。最初はまさに右も左も分からず、当時教育3号館にあった評価センターを探して大学内で迷子になったこともあり。4月からは秋田県立大学に戻りますが、秋田大学と秋田県立大学とは国際交流にとどまらず協力しあえる点が多くあると思いますので、両大学の架け橋となれるよう、これからも努力していきたいです。

(KATO, Ayako — 国際交流課)

## 秋田大学の留学生数 (2010年度後期)

▶ 学部生：91名 ▶ 大学院生：35名 ▶ 交換留学生・研究生等：39名 **計：165名**